

photopos 78

2019.12.15～2020.1.8

【神秘学ポエジー～風遊戯 第156集】

photo ヴァージョン

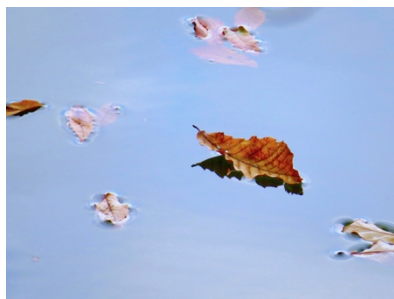
Photopos1926-1950



枯れ落ちる
もののなかに
枯れ落ちない
ものは沈黙している

忘れている
もののなかに
忘れられることのない
ものは持続している

するという
ことの中に
しないという
ことは秘されている





わからないときは
わからないままに
わからないことなかで
しずかに深呼吸する

(わけられないもの)
(わけてはいけないもの)

わかるときは
わかっていることを
問いなおし問い直し
まだわからないことへと
しずかに歩きだす

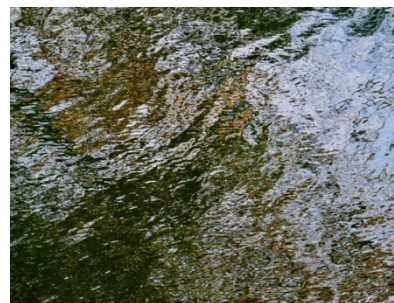
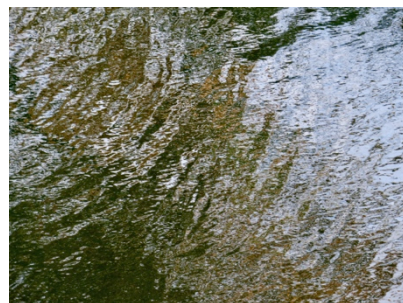
(わけられたもの)
(むすばれるもの)

うつろうときは
うつろうままに
うつろいのなかで
しずかに揺れる

(うつるもの)
(うつらぬもの)

立ち止まるときは
立ち止まった場所を
たしかめたしかめ
そこからなにが見えるかを
ゆっくりと見定める

(かわってゆくもの)
(かわらないもの)





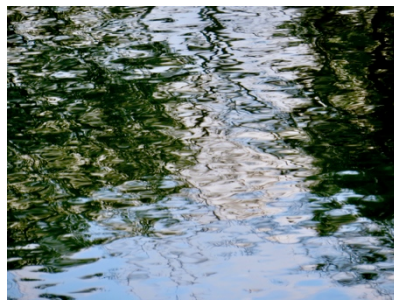
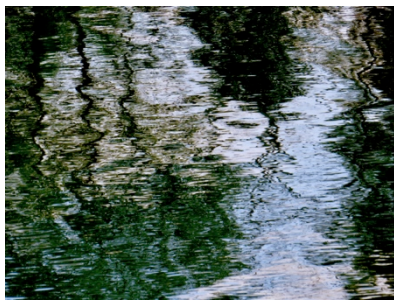
黙っていても
ほんとうは
考えているから
むりに
言葉にしないている

動かないでも
せかいを
呼吸しているから
むりに
動かないている

教わらなくても
じぶんで
学んでいるから
むりに
教わらないている

いっしょじゃなくても
かたちは
いろいろあるから
いっしょにはしないている

決めなくても
道は
ひとつじゃないから
むりに
決めないている



☆photopos-1929 2019.12.18



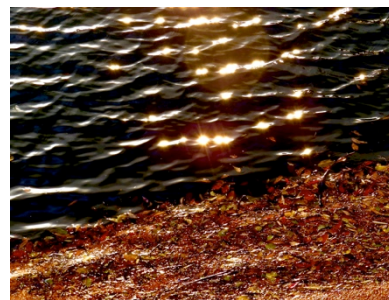
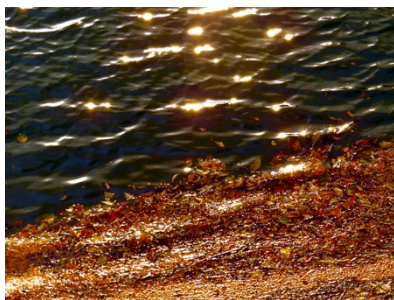
わたしは
わたしでない世界に
うまれてくる

そしてそこで
ひとつひとつ
わたしを
見つけていかねばならない

わたしでない世界は
ほんとうは
わたしが眠っている世界なのだ
わたしがわたしを見つけたとき
それがひとつひとつ目覚めてゆく

わたしはそこで
ひとつひとつ
わたしの言葉を
探さなければならない

知らないでいる言葉は
ほんとうは
わたしが忘れていた言葉なのだ
わたしがその言葉を見つけたとき
言葉がひとつひとつわたしになってゆく



※愛媛県総合運動公園にて

☆photopos-1930 2019.12.19



ゆれる影は
光ゆえ

光なきとき
影も消え

(光は影の)
(あわいをゆれ)

うつろう時は
心ゆえ

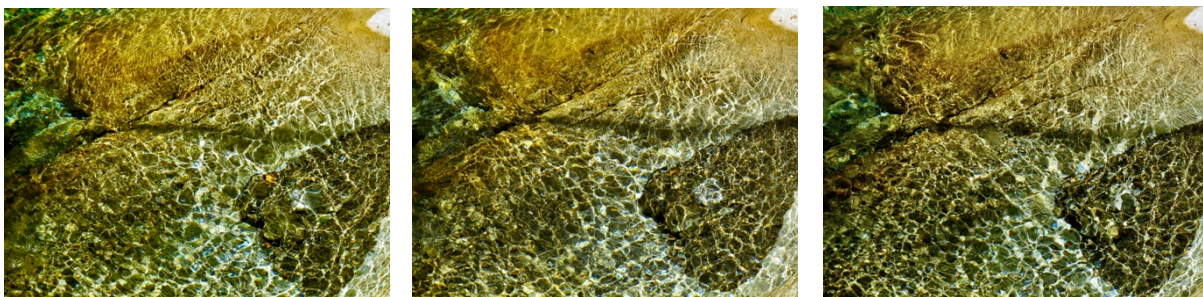
心なきとき
時も消え

(心は時の)
(あわいをうつろい)

流れる姿は
命ゆえ

命なきとき
姿も消え

(姿は命の)
(あわいを流れ)



※愛媛県久万高原町・面河溪にて

☆photopos-1931 2019.12.20



生まれるまえの
光に会いにきました

不可視の姿で
目覚めようとする
花のような光に

生まれるまえの
言葉に会いにきました

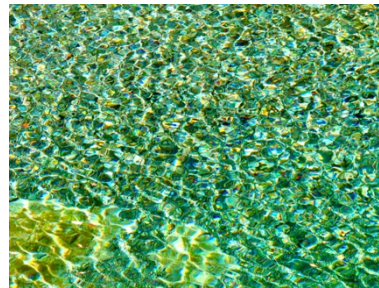
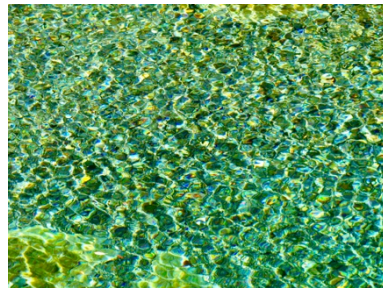
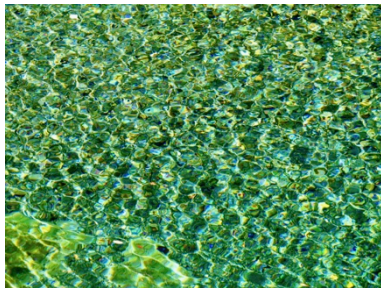
幾何学的な形で
宇宙を紡ごうとする
風のような言葉に

生まれるまえの
時に会いにきました

全てを孕む持続のなかで
楽を奏ではじめようとする
魔法のような時に

生まれるまえの
現(うつつ)に会いにきました

問いのなかから
答えを発芽させようとする
夢のような現に



※愛媛県久万高原町・面河溪にて

☆photopos-1932 2019.12.21



わたしには
わたしでないものが潜んでいる
わたしであろうとするならば
その不安のなかを
人は生きねばならない

(かごめかごめ)

わたしでないものは
わたしからは決してみえない
存在の死角としての
後ろの正面に潜んでいる

(かごのなかのとりは)

わたしがわたしであるためには
後ろの正面を持たねばならないが
それはわたしではないわたしという他者なのだ

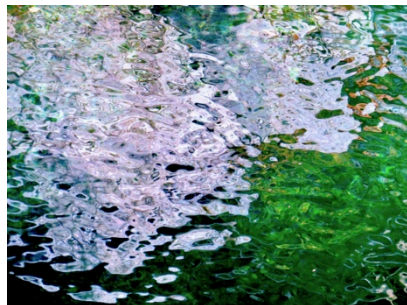
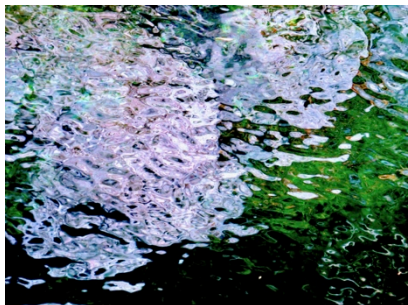
(いついつでやる)

ときにそれは
影となり闇となり
鬼となり盟友となり
むしろわたしに光を与え
わたしを照らし出してくれる

(よあけのぼんに)

わたしという正面と
わたしでない後ろの正面と
ふたつの矛盾する正面が
複素数のようにむすばれているのが
わたしであろうとするわたしなのだ

(うしろのしょうめんだあれ)



※愛媛県内子町・小田深山溪谷にて

☆photopos-1933 2019.12.22

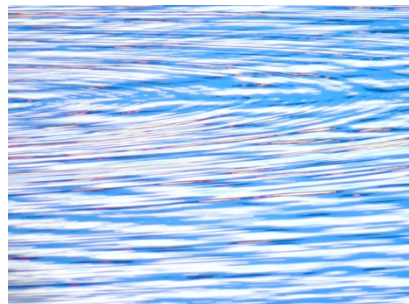


うそと
ほんとうが
せめぎあい
波紋をつくる

ほんとうだけでは
息ぐるしいけれど
うそばかりになると
生きられなくなるから
波紋は広がりつつける

からだど
ころが
むすびあい
私をつくる

からだだけでは
からっぽのままだけれど
ころばかりになると
かたちをなくしてしまうから
私はからだところを呼吸するのだ



※愛媛県総合運動公園にて

☆photopos-1934 2019.12.23



なぞのように
であい

(秘密はひらかれ)

なぞのように
もとめ

(秘密はうたい)

なぞのように
あなたと

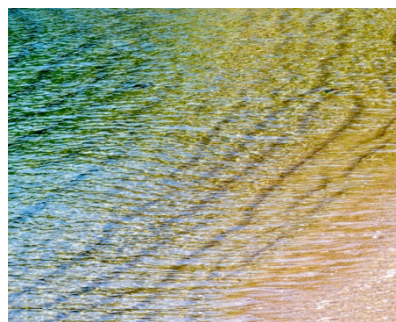
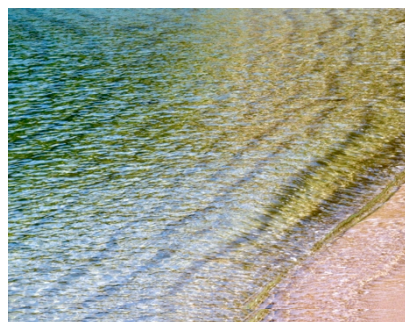
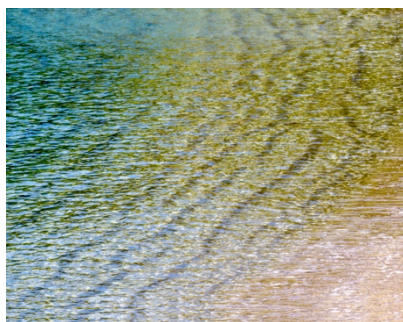
(秘密はそだち)

なぞのように
はなしつづけ

(秘密はかさねられ)

なぞのように
ときはめぐり

(秘密はむすばれ)



※愛媛県松山市大浦にて

☆photopos-1935 2019.12.24



ただ求めるだけの
手ではないだろう

手はつくらねばならない
いまだ形にならない形を

ただ求めるだけの
声ではないだろう

声はつくらねばならない
いまだ歌にならない歌を

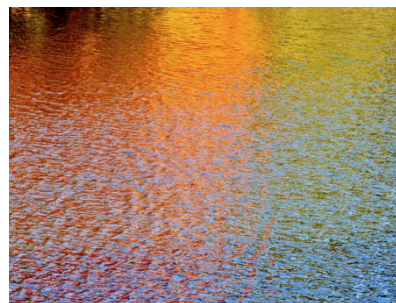
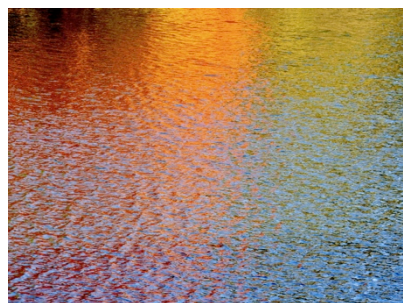
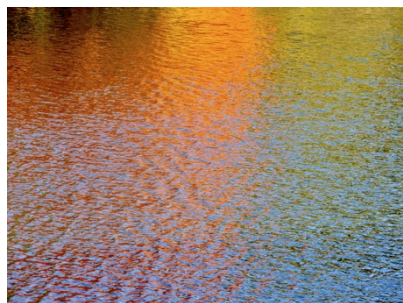
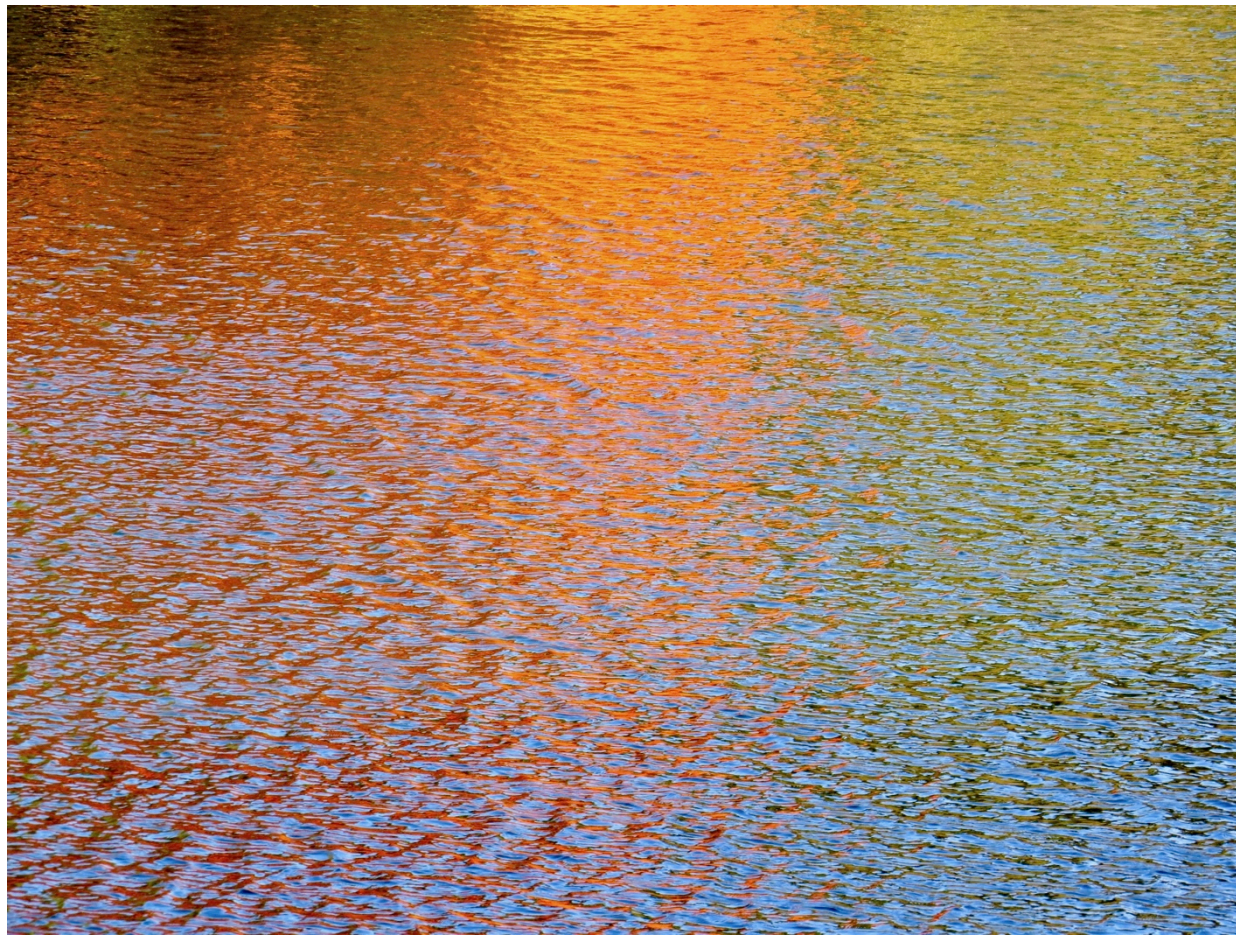
ただ求めるだけの
心ではないだろう

心はつくらねばならない
いまだ花にならない花を



※愛媛県総合運動公園にて

☆photopos-1936 2019.12.25



つかのまの
鏡を
なぞのように
照らす
光よ

(色の魔法は)
(なにを映すか)

つかのまの
心を
なぞのように
揺らす
風よ

(ひとときも
(とどまることなく)

つかのまの
姿を
なぞのように
演じる
夢よ

(変容しつづける)
(精霊のように)

※愛媛県総合運動公園にて

☆photopos-1937 2019.12.26



夢のなかで目覚めたとき
自明のものはすでに
自明のものではなくなっていた

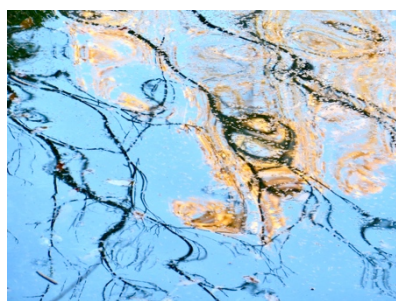
わたしという存在は半ば裏返り
世界はわたしから生まれ
わたしになってゆく
メビウスの環のようになっていたのだ

わたしが見ること
考えること感じること
それらそのものが世界になってゆく

そこにはわたし以外は
存在していなかったから
見ること考えること感じること
それらそのものを
生みだしていかなければならなかった

夢から醒めたとき
夢の自明はもう
自明ではなくなっていたけれど……

気づいてみれば
現実とされる世界にも
わたしが見るとき
見られるものにはわたしがいて
考えるとき
考えられるものにはわたしがいて
感じるとき
感じられるものにはわたしがいるのだ



※愛媛県総合運動公園にて



夢と現のあわいに現れた
記憶の影のなかには
忘れていた扉があった

その扉を開けて
迷路を進んでゆくと
そこには

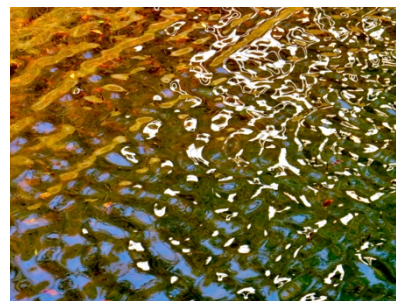
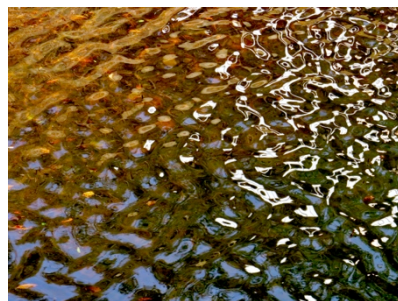
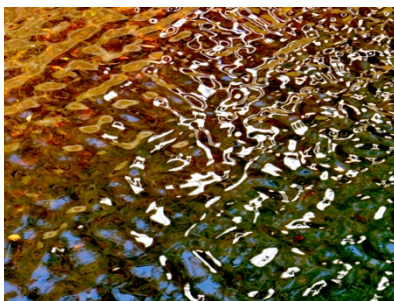
言葉になるまえの言葉
光になるまえの光
心になるまえの心
形になるまえの形

そんな
存在になるまえの欠片たちが
玩具箱のなかで眠るように
眠りの醒めるのを待っている

その部屋で私は
かつてそんな欠片たちと
玩具と戯れるように
遊んでいたのだろうか
なにも知らずに
ただ私になるまえの私として

そして
私が私になるために
それらの欠片たちをまとい
扉を開け現の世界へ

言葉に光に心に形に姿を与え
すべてを忘れることで
生まれてきたのだろうか



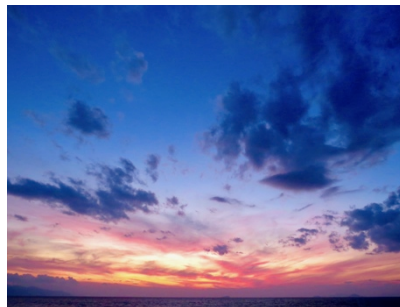
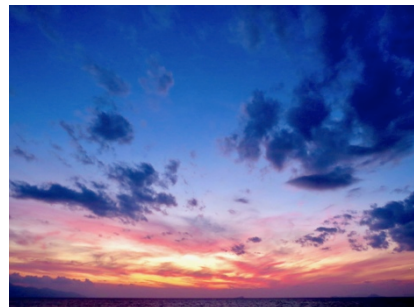
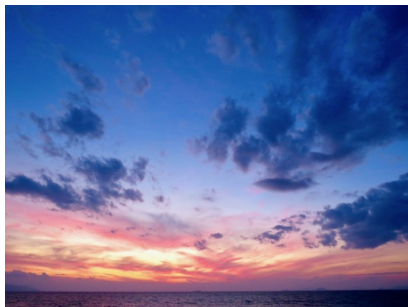
☆photopos-1939 2019.12.28



光は光
されど
光は
光を超えて
ゆかねばならぬ
輝きて後
見えぬ光と化す如く

花は花
されど
花は
花を超えて
ゆかねばならぬ
咲きて後
まことの花と化す如く

我は我
されど
我は
我を超えて
ゆかねばならぬ
我ありて後
無我の我と化す如く



※松山市・重信川河口にて

☆photopos-1940 2019.12.29



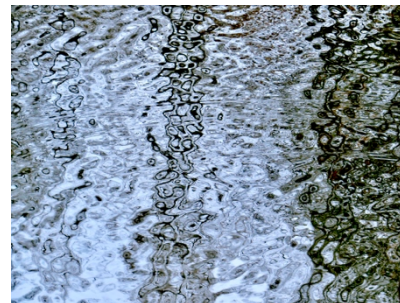
コトバは訪れ
波紋となって
広がっていき

そしてコトバは
わたしのなかに
溶け込んでいった

しらずそれは
わたしのなかで
育ちはじめているのか

わたしのなかで
コトバの細胞は次々と
あらたなコトバを生んでゆく

わたしもまた
コトバとなり
波紋ともなるのだろうか



※愛媛県総合運動公園にて

☆photopos-1941 2019.12.30



私は私という
記憶を生きている

私という物語をつくるための
ほんのわずかな
記憶だけをつなげながら

私は私という
記憶なのだろうか
記憶がなくなったとき
私はこの私を失くしてしまうのだろうか

ほんとうは
数えられないほどあるはずの
忘れられた記憶は
そして
私が私である前の
はるかな記憶はどこにあるのか

思い出せるときはくるのだろうか
そのときがくれば
私という物語は
書き換えられるのだろうか
もはや私ではない私となって

ほんとうの場所では
すべての記憶は時空を超え
無数の私という物語が
曼荼羅のように
生きてらているのかもしれないけれど



※愛媛県久万高原町・面河溪にて

☆photopos-1942 2019.12.31



生まれてきたために
生きることから
逃げられなくなった

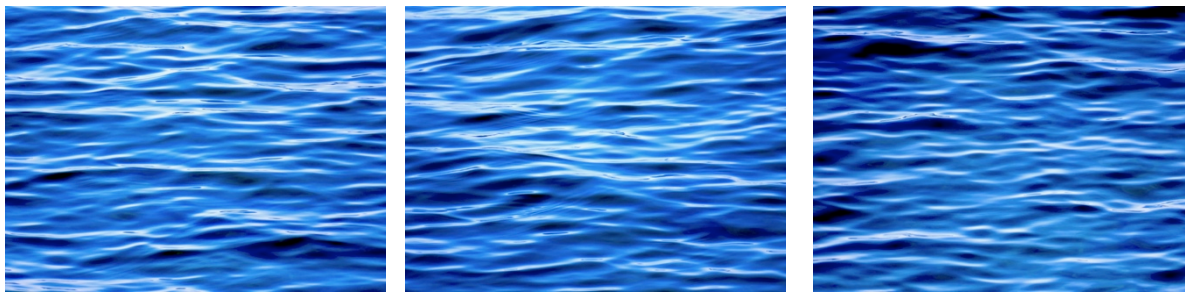
(だれも代わって)
(生きてはくれないから)
(じぶんで生きて)
(歩いていかなければならない)

生まれてきたために
老いることから
逃げられなくなった

(だれも代わって)
(老いてはくれないから)
(じぶんで老いて)
(熟してゆかなければならない)

生まれてきたために
死ぬことから
逃げられなくなった

(だれも代わって)
(死んではくれないから)
(じぶんで死んで)
(恐れをこえてゆかなければならない)



※愛媛県松山市大浦にて

☆photopos-1943 2020.1.1



光は現れ
そして闇のなかに
失われもするだろうが
ほんとうの光が
失われることはない

光はコトバなのだ
コトバは宇宙を
永遠に照らしている

色は現れ
そして闇のなかに
失われもするだろうが
ほんとうの色が
失われることはない

色は空(くう)なのだ
空は宇宙を
永遠で包んでいる

心は現れ
そして闇のなかに
失われもするだろうが
ほんとうの心が
失われることはない

心はいのちなのだ
いのちは宇宙を
編み育てている



※愛媛県松山市・重信川河口にて

☆photopos-1944 2020.1.2

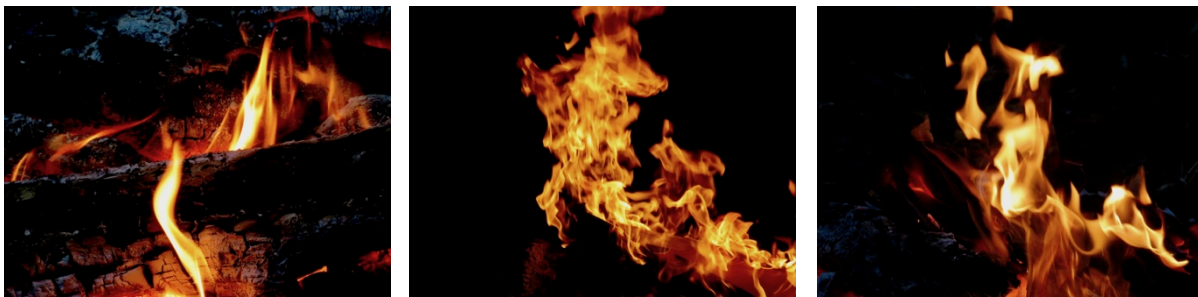


炎は
凍えたからだを
温めようとはするだろうが
凍えたところを
癒やすことはできない

(こころは闇のなかで)
(みずからを温める)
(火種をつくらねばならない)

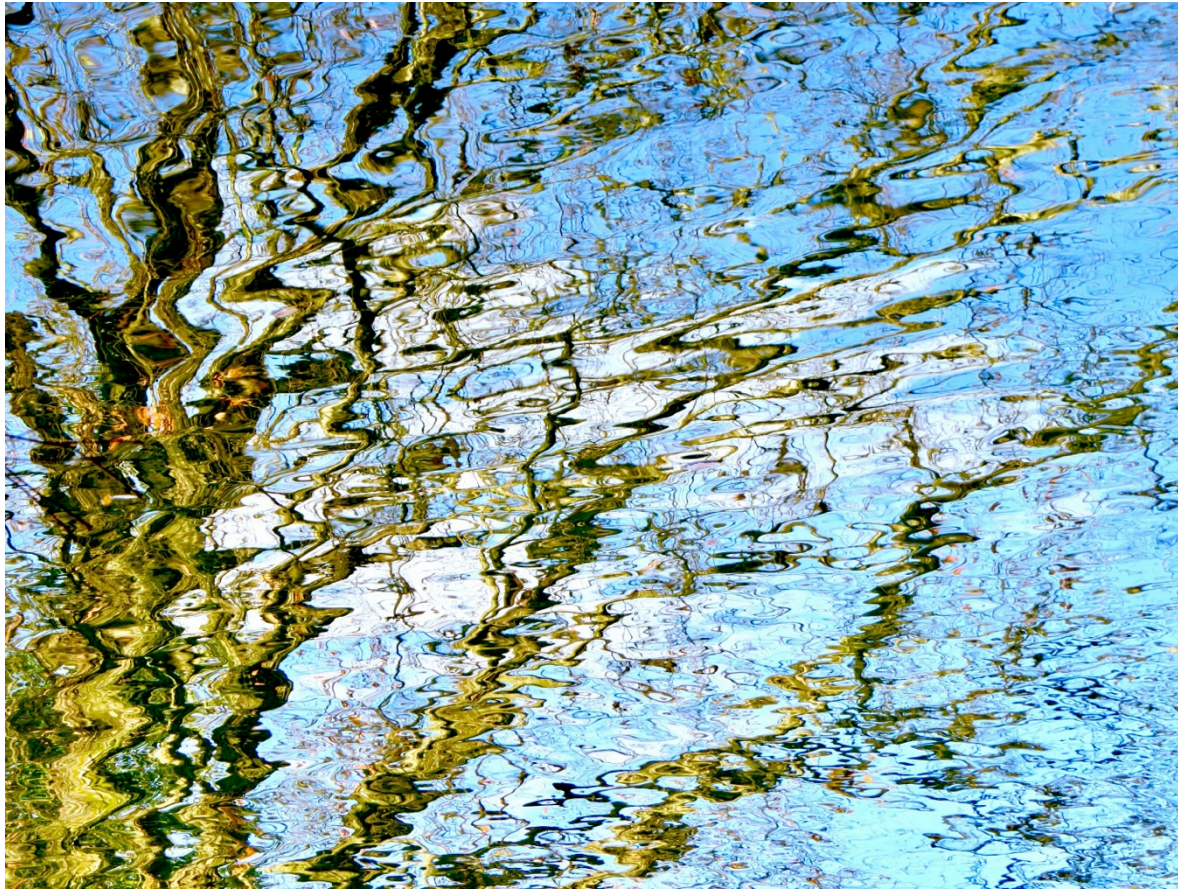
炎は
燃え盛るころをさえ
焼き尽くそうとはするだろうが
わたしの苦しみそのものを
灰にすることはできない

(苦しみはみずから)
(新たな姿へと)
(生まれ変わらなければならぬ)



※広島県尾道市向島・高見山山頂にて(元旦:初日の出)

☆photopos-1945 2020.1.3



現実
人を閉じこめる
魔法だから

現実から
出るためには
別の魔法が必要になるけれど

だいじなことは
現実から出たとき
じぶんを壊さないようにすることだ

閉じ込められていることでしか
じぶんが保てないとき
致命的な狂気に晒されることになる

狂気は
現実から出るための
魔法のひとつだけれど

現実さえ遊べる
自由な狂気を持ってないかぎり
人はただ壊れてしまうばかりなのだ



※松山市総合運動公園にて



はじめての光は
はじめての心が観る光だ

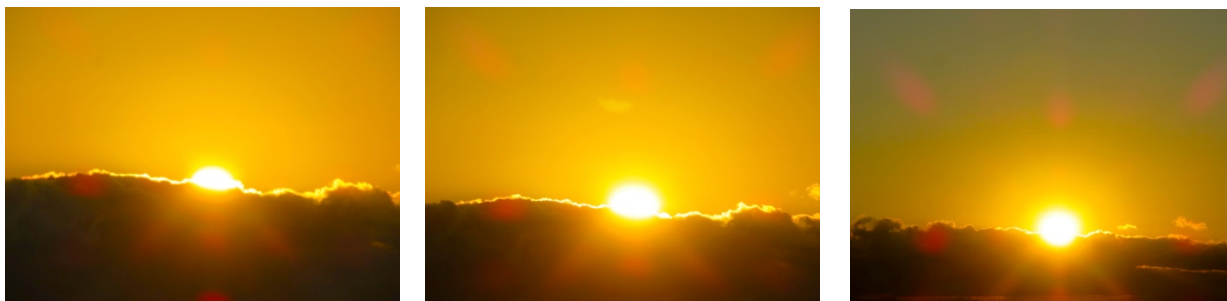
(光のほんとうを生きるために)
(光は生まれかわらなければならない)
(観ることはそこからはじまるのだから)

はじめての時は
はじめての心が創る時だ

(時のほんとうを生きるために)
(時は生まれかわらなければならない)
(創ることはそこからはじまるのだから)

はじめての言葉は
はじめての心が詠う言葉だ

(言葉のほんとうを生きるために)
(言葉は生まれかわらなければならない)
(詠うことはそこからはじまるのだから)



※広島県尾道市向島・高見山山頂にて(元旦)

☆photopos-1947 2020.1.5



忘れるのは
生まれるためなのか

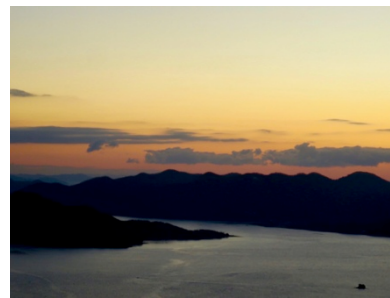
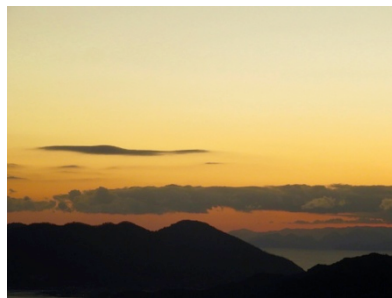
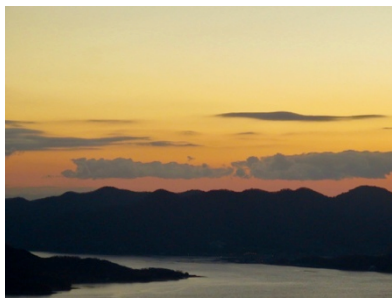
生まれることで
すべてをはじめられるように

生まれることで
新しいわたしになれるように

生まれるのは
忘れるためなのか

忘れることで
すべてをはじめられるように

忘れることで
新しいわたしになれるように



※広島県尾道市向島・高見山山頂にて(元旦)



めぐる時を学ぶために
時を測る必要はない

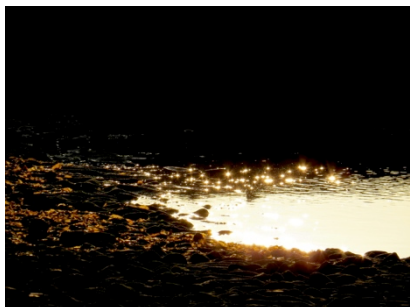
測られるものだけしか信じない
そんな信仰もあるようだが
測ることで得られるのは
数値化された心のようなものだけだ

時はただ待つことで
魂のなかに姿なく刻まれてゆく

刻まれた秘密の文字を読みとり
そこから学ぶことこそが
時から学ぶことになる

待つことは愛に似ている
ほんとうの時は魂の言葉だから
その言葉が愛を詠うときまで
静かに待たなければならないのだ

そのときはじめて
時は愛になるのだから



☆photopos-1949 2020.1.7



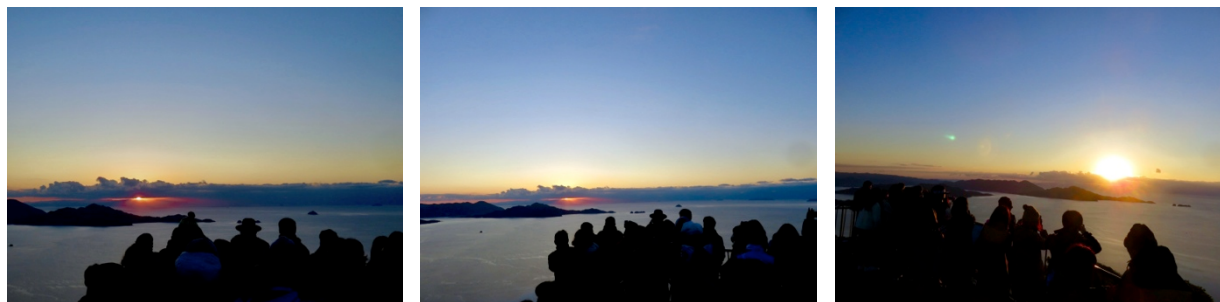
あたりまえのように
昇る朝陽も
一年に一度
はじめての朝陽になる

あたりまえのように
訪れる日々も
記念日となると
かけがえのない日になる

あたりまえのように
交わされる言葉も
特別な人になると
記憶に残る言葉になる

あたりまえのように
会う人も
別れのときには
特別な人になる

あたりまえのように
流れる時間も
秘儀のなかでは
永遠の時間になる



※広島県尾道市向島・高見山山頂にて(元旦)

☆photopos-1950 2020.1.8



自然の秘密は
たしかにそこにあるのに
私には手がとどかない

秘密は笑っているのだ
おまえも自然なのでないか
秘密は問いそのものなかで
はじめて開かれてゆく
まず問いをこそ求めよと

私という秘密は
たしかにここにあるのに
私にはそれがわからない

秘密は笑っているのだ
私は私なのではないか
私をどのように問うか
それそのものが
私という秘密を開いてゆく
まず問いをこそ求めよと



※愛媛県総合運動公園にて